

仏心と葬弁儀 ーその15ー

丸和堂の事業の軌跡

いささか手前味噌な話とは存じますが、ここで丸和堂の創業から現在までの経緯と軌跡を振り返ってみたいと思います。

釧路丸和堂が創業したのは昭和43年7月。葬儀業界のことなど何も知らなかった創業者・飛田英雄が、妻芳栄の理解と献身的な協力を得て事業をスタート。まさに右も左も分からぬままに、がむしゃらに仕事をおぼえ始めた年でした。

昭和47年9月には春採支店を開設。太平洋炭礦に勤務していた当時の居住地ということもあり、旧知の友人・同僚など、多くの人間的なつながりが丸和堂を支えてくださいました。また、春採支店の開設と前後して初めてとなる小型霊柩車を購入。生活保護世帯などの困窮世帯には病院から自宅、自宅から式場あるいは火葬場まで無料で遺体をお運びするというサービスも実現することができるようになりました。

昭和48年に本社社屋を花園町の現地に移転・新築。また、釧路市職員の福利厚生事業者としての指定を受けることができました。

昭和50年6月には創業8周年を記念し、沼尻会館において「葬送者追悼法要」を挙行。この時の慰霊者は、すでに

1892名に達していました。

昭和51年7月に弟子屈支店、同52年8月に音別営業所を、さらに翌年5月には霧多布支店を開設しました。

昭和54年になると、6月に財団法人北海道職員互助会の指定を受けることができたほか、7月に初の子会社となる株式会社丸和生花店を設立し、8月には同生花店開設を記念した「無縁物故者追悼法要」を挙行させていただくことができました。

また、同じく丸和生花店の開設を記念して、市内にある「まりも学園」の子どもたちを慰問し、恵まれない子どもたちをボウリング場に招待して大変に喜ばれました。

時を同じくして道東の北見市に進出を決定、地元の要望に応える形で「株式会社 北見冠葬」を設立いたしました。

その後も幾多の紆余曲折を経ながら、釧路市をはじめ道東全域の地域の皆さまの温かいご支援をもちまして、私ども丸和堂は今日まで事業を続けて参ることができました。これらはすべて、物故者と仏様が私どもを結び付けてくださった浅からぬ仏縁と日々感謝し、死者生者を問わずにその恩と縁に報いて参りたいと決意を新たにしているところです。

つづく

■次回の掲載は十一月二十一日(土)を予定しております。